

北陸生まれの新サービス、『ケーブルアクトビラ』の全国展開を後押し ～北陸総合通信局 齊藤局長が『ケーブルアクトビラ』を視察～

齊藤一雅北陸総合通信局長は、平成 24 年 12 月 13 日、株式会社ケーブルテレビ富山（代表取締役社長：松波孝之）を訪問し、同社及びとなみ衛星通信テレビ株式会社（代表取締役社長：岡部一輝）が 12 月 1 日より開始した『ケーブルアクトビラ』を視察し、株式会社ケーブルテレビ富山の松波社長、一般社団法人富山県ケーブルテレビ協議会の西村理事事務局長及び株式会社アクトビラの和田メディア営業部部長と意見を交換しました。

一般社団法人富山県ケーブルテレビ協議会の理事長でもある松波社長は、「VOD は多チャンネルサービスと競合する面もあるが、顧客の多様なニーズに応えるためには新たな可能性にチャレンジしていかなければならないと考え、ケーブルテレビ事業者として初めてアクトビラと提携することにした。『ケーブルアクトビラ』は一般社団法人富山県ケーブルテレビ協議会の統一の取組として合意を得ているもので、現在、協議会に加盟している他の事業者も導入に向け検討している。」と、導入の動機と今後の抱負を述べました。

和田部長は、『ケーブルアクトビラ』を始めるに当たって、お客様にとってのメリットはもとより、ケーブルテレビ事業者、アクトビラの双方がメリット（インセンティブ）を実感できるビジネススキームを提案した。富山での成功に全力を傾注するとともに、全国のケーブルテレビ業界との提携を目指していきたい。」と、関係者が等しくメリットを享受できる WinWin の提携であることを強調しました。

それを受けて、齊藤局長は、「放送・通信のハイブリッド時代を迎えて、ケーブルテレビ業界にとっても顧客の多様なニーズに応える新たな選択肢が必要になっている。『ケーブルアクトビラ』は、地方の事業者の身の丈に合った地方からの画期的な提案であり、勇気ある挑戦だと思う。この北陸生まれの新サービスが全国に広まっていけば本当に素晴らしい。また、アクトビラは、“みなみそうまチャンネル”（全国に避難している被災者向けの放送）を配信している唯一の IPTV。『ケーブルアクトビラ』を通じて、さらに多くの避難者、視聴者に観ていただくことになれば、それだけ復興支援の大きな力にもなる。さらに、北陸総合通信局が主宰した「北陸 ICT 戦略ミッション（韓国訪問団：平成 23 年 11 月 22～25 日）」への参加が縁となって、今回のアライアンスに繋がったと聞き、嬉しい限り。」と語った。

北陸総合通信局では、今後、北陸生まれの『ケーブルアクトビラ』を北陸の先進事例として積極的に情報発信するなど、全国展開を応援し、後押しすることとします。



ケーブルアクトビラ専用画面（株）ケーブルテレビ富山

[【参考資料】ケーブルアクトビラへの取り組み～多様化するお客様ニーズへ～](#)



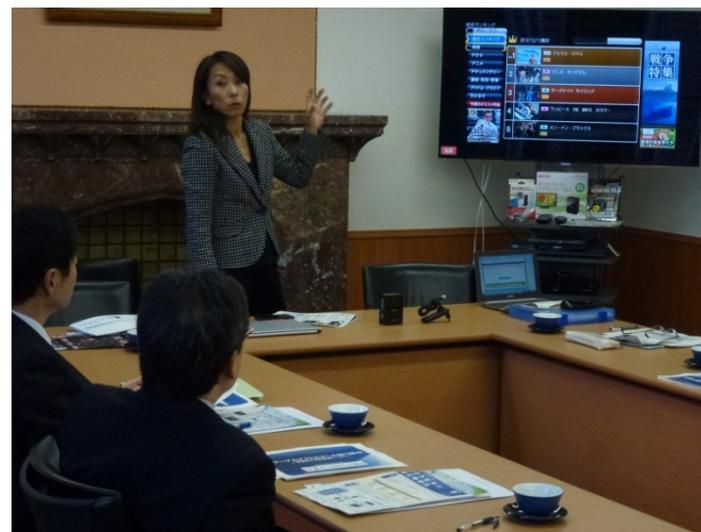
今後の成功に期待を述べる齊藤北陸総合通信局長



導入の動機と今後の抱負を述べる(株)ケーブルテレビ富山松波社長



ケーブルテレビ業界との提携に意欲を見せる(株)アクトビラ和田部長



『ケーブルアクトビラ』のデモの様子

連絡先：北陸総合通信局情報通信部電気通信事業課（担当：綿谷、中野）

電話：076-233-4420

e-mail：hokuriku-jigyo_seisaku_atmark_soumu.go.jp